



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1808号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL (055) 976-6351 FAX 976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL (055) 972-2122
会長 矢野 敏夫 幹事 西本 和夫



広重版画より 三島 朝霧

第1870回例会

2011.1.20晴

司 会

石井良衛君

ロータリーソング

「日も風も星も」
指揮 柴崎恵子君

会長挨拶

会長 矢野敏夫君

皆様こんにちは。1月は「ロータリー理解推進月間」です。ロータリーについての知識と理解を会員に一層深めてもらい、同時に、ロータリー以外の一般市民にもロータリーのことを知ってもらうためのプログラムを実施する月間です。今日はこのあと遠藤委員長によるクラブフォーラムもあります。

下半期のスタートとして「地域を育み、大陸をつなぐ」を再認識する大変良い機会であって、先ず、自分の所属する委員会が、この半期でどう活動したのか、あるいはしなかったのか、ということを確認して下半期の活動をしてほしいと思います。

さて、理事会においてはCLP導入から3年目を迎え、この2年間を振り返って、クラブの運営、継続事業について見直しや改善が必要かどうかを検討してきました。その結果、一応の結論を得、理事会決定しました。検討事項として私が考えたのは次の3項目です。

1. 委員会編成の見直し
2. 継続事業の位置づけ
3. 会員維持と会員増強について

このうち1については、現在の委員会構成が当クラブの規模等に照らして適当とは認められず、特に特定の委員会に活動等が集中してしまうなどして、見直しが必要があることです。基本的にはCLP導入以前の編成に戻すことで現在次年度の会長、幹事を中心に見直しを行なっています。

そして2については、予算と事業の効果等についてなるべくアクセントをつけるべきだと思います。特に

苗栗研修中学生派遣事業については費用対効果を今一度検討すべきだと思います。最後に3は、会員維持には親睦が大事だということ、そして会員増強のためには当クラブの全員が実質的に会員増強委員になることだと思います。こういう厳しい時期でもあり、増強は難しいことですが理事・役員・委員会をはじめ、会員全員で増強には普段から心がけていくことが必要だと思います。

以上の検討をもって、この半期を振り返っての私の認識とさせていただきます。

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席率
前々回	45/47	95.74%	46/47	97.87%
今回	39/47	82.98%	会員総数	52名

欠席者 勝間田君、窪田君、黒田君、鈴木(郁)君、千葉君、花房君、室伏君、米山君

幹事報告

幹事 西本和夫君

①この度、せせらぎ三島RCがキャリア教育優良団体として、文部科学大臣賞を受賞されました。ロータリーの地域に根差した社会奉仕活動が評価された事例として、お知らせ致します。受賞対象は、教育委員会、小・中学校、高等学校並びに企業・PTA団体であります。企業・PTA団体等の25団体のなかに、RCとしては唯一です。受賞理由は、以下とおりです。☒

- 1 平成8年-10年にかけて実施した青少年セミナーや体験セミナー☒
- 2 平成11年度から、三島北中学校の職場体験活動に協力☒
- 3 平成16年度からは、三島地区職場体験活動推進事業の推進に務め、中学生の受入先確保に尽力☒

2010～2011年度
国際ロータリー会長
レイ・クリンギンスミス

地域を育み、大陸をつなぐ

おめでとう

会員誕生日 西村君、鈴木(正)君
奥様誕生日 西村君、伊丹君、矢岸君

スマイルボックス

- ◆ 遠藤(正)君、長男の結婚報告会が無事終了しました。室伏さん、宇都宮さん、お世話になりました。本日はR情報の卓話です。宜しくお願いします。
- ◆ 室伏君、遠藤正幸様、ご息のご婚礼おめでとうございます。お手伝いさせていただきありがとうございます。
- ◆ 佐々木君、矢野会長、写真ありがとうございました。
- ◆ 伊丹君、お陰様で新工場が落成致しました。3月27日日曜日に祝賀披露宴を開きたいと思っています。HACC P(ハセップ)工場で安心・安全・健康を目的とした工場です。是非工場見学ください。
- ◆ 土屋君、久しぶりのホームクラブ出席です。

入会おめでとう



岸田裕之君

生年月日 1958年12月12日
代表事業所 静岡ガス株式会社 東部支社
役職 副支社長
家族構成 母・妻
趣味 ゴルフ・スキー

卓話

クラブフォーラム～ロータリー情報

R情報委員長 遠藤正幸君

ロータリーの基本知識

日本で最初のロータリークラブは、1920(大正9)年10月20日に創立された東京RCで、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、創始者ポール・ハリスの右腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長のチェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退。戦後1949年3月になって、復帰加盟します。その後の日本におけるロータリーの拡大発展には目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。

日本は、現在34地区に分かれており、そのうちの1地区には、北マリアナ諸島、グアム、ミクロネシア、パラオという海外の地域が含まれています。日本国内のクラブ数は2,331、会員数10万3,403人(2005年5月末現在)となっています。

ロータリーの発展

二つの大震災を乗り越えて日本は地震大国と言われますが、日本で起こった二つの地震とロータリーには、深い結びつきがあります。

関東大震災とロータリー

1923年9月の関東大震災は、日本のロータリーの運命を大きく変えることになりました。関東一円、特に東京と横浜は、この地震によって壊滅的な被害を受けましたが、これを耳にした、当時の国際ロータリー(RI)会長ガイ・ガンデーガーは、お見舞いの電報とともに2万5,000ドルを、被害に遭っていない大阪RCを経て送ってきました。

シカゴRC、サンフランシスコRC、ニューヨークRCをはじめ、各国の503のクラブからも続々義援金が寄せられ、その総額は8万9,000ドル(今のお金に換算すると、約3億円)にも達しました。このことによって、東京RCの会員たちは、初めてロータリー運動の何たるか、ロータリークラブとはどういうものなのかが身にしみて理解できたといわれています。

(週報担当: 柳田英雄)